

国内外の自治体・公的機関における推進事例

1. 神戸市

1.1 概要

神戸市では、神戸経済の持続的成長を目指すため、社会にイノベーションを起こし得るスタートアップの集積・育成を支援する取り組みを進めている。国内外から多くの優秀な若い世代を集めて人材の流動性を生み出すとともに、起業しやすい都市としての神戸の認知度向上を目指し、若手人材のシリコンバレー派遣やスタートアップ施設の開設やイベントの開催を積極的に行っている。さらに、世界トップレベルのアクセラレーターである 500 Startups の日本初誘致に成功し、パートナー関係を締結してアクセラレータープログラムを実施したことで大きな注目を集めている。

1.2 課題・背景

神戸市における取り組みは、2013 年 11 月に現市長の久元喜造氏が就任したことから始まる。久元氏は、行政が保有するデータの 2 次利用により、経済活性化を狙う「行政オープンデータ」を推進すべく、発祥地であるロンドンなど欧米への視察を行なった。同視察によって、この領域では、行政データをスタートアップが活用して、ユーザー向けのアプリを開発していることを学ぶ。例えば、日本では大企業が主導で開発する交通渋滞を解消するアプリの開発を、海外では社会や地域の課題を解決しようとするスタートアップが担っており、同氏にとって起業家・スタートアップに目を向けるきっかけとなった。そこで、同市役所新産業グループ下で予算を確保し、行政オープンデータとスタートアップ支援施策という両輪の取り組みを 2015 年 4 月より開始した。ここでは、主に後者のスタートアップ支援施策について紹介する。

1.3 取り組み

神戸市におけるスタートアップ支援施策に関して、中心的な役割を担うのが新産業グループ 新産業創造担当課長である多名部重則氏である。同氏が掲げる神戸市のスタートアップ支援施策は、主に以下の 4 つである。

(1) 海外の先進企業と若手 IT 人材の交流

若手人材の起業家マインドを醸成し、神戸市において起業家文化を根付かせる目的で、2015 年より「シリコンバレーへの若手人材派遣プログラム」を実施している。同プログラムでは、主にプログラミングスキルやエンジニア経験を有する理系学生や起業に興味のあるエンジニア、および若手起業家(創業 5 年以内)を、IT イノベーションの中心地である米シリコンバレーへ派遣し、現地の起業家やベンチャーキャピタリストとの交流を図る。具体的には、シリコンバレーに多くに優秀な人材を輩出するスタンフォード大学、スタートアップからグローバル企業に成長したアップル、グーグル、ヤフー、エンジニアが集積する GitHub や注目の現地スタートアップを 5 日間で訪問する。事前準備としてプレゼンブラッシュアップやメンタリング支援も行われ、最終日には選抜された 5 名程度が現地投資家 500 Startups を前にピッチするチャンスを得ることができる。

(2) スタートアップ育成事業

行政機関として取り組む上で、利潤ばかりではなく、行政の課題を解決しようとする 500 Start up や Y Combinator などの海外のスキームを参考にし、スタートアップの支援を目的とした「KOBE Global Startup Gateway」というイベントの開催や、「神戸スタートアップオフィス」を開設した。

「KOBE Global Startup Gateway」は、神戸市のアクセラレーションプログラムに参加する 5 チームの起業家を選出するスタートアップコンテストである。2015 年 12 月に開始し、現在第 3 期目を迎えている。プロトタイプ開発中のシード終盤期から一定程度のユーザーを確保しているアーリー中盤期の企業・チームを対象とし、メンバーの優秀度、市場性・創造性に加え、神戸市との親和性などを基準に選出する。募集終了後、約 2 ヶ月の期間でメンタリングなどを経て、最終的にはファイナルピッチの結果により 5 社が選定される。社会的課題解決を目指す事業向けのコースと世界規模での事業成長を狙うグローバルコースの 2 つを設けており、前コースの選抜チームには活動資金として 30 万円、後者には 100-150 万円が提供される。また、神戸スタートアップオフィスを拠点としたサポートを受けることができる他、約 3 ヶ月間のアクセラレーションプログラムへの参加が付与される。

「神戸スタートアップオフィス」は、IT 起業家の活動拠点として神戸・三宮「ミント」14 階に 2016 年 1 月に開設され、神戸新聞社・関西学院大学が事業運営を行なっている。神戸市が実施するアクセラレーションプログラムの拠点でもあり、IT を活用した国内外の成長型スタートアップを募り、同プログラムを通じてビジネスプランのブラッシュアップや活動資金の提供など、今後の飛躍に向けた成長支援を実施している。また、KDDI、マイクロソフト、楽天ベンチャーズなど多様な業界における企業パートナーより、メンターやセミナー講師として参画してもらっている。

(3) 民間 IT 人材の登用

2016 年 4 月には、スタートアップ事業強化に向けて民間 IT 人材 2 人を登用した。その 1 人が、コード・フォー・ジャパン代表理事の関治之氏である。神戸市では、スタートアップ事業の推進にあたって IT 全般を俯瞰して指導・助言を行なう「チーフ・イノベーション・オフィサー(CINO)」として同氏を採用した。同時に、IT のスキルやノウハウを活用したスタートアップ支援推進事業を行う「IT イノベーション専門官」として、NTT コムウェアなどの民間企業での勤務経験があり復興庁にも在籍していた吉永隆之氏を採用した。このように民間からの採用を通じてスタートアップ事業を強化していった。

(4) 500 Startups との連携

多名部氏がスタートアップ支援事業において最も注力した取り組みの一つが、500 Startups の誘致である。同氏は、神戸市でスタートアップ支援事業を推進するにあたり、シリコンバレーなどのアクセラレータープログラムからヒントを得て、同様の取り組みを神戸市でも導入することを考えた。自身でシリコンバレー現地を訪問しただけでなく、2015 年 6 月に久元市長にも訪問を促し、現地のスタートアップやエコシステムを体感・視察してもらった。当時すでに日本を、成熟市場とテクノロジーの魅力をも有する注目領域と見ていた 500 Startups CEO の Zafer Younis 氏と市長が面談したことがきっかけで、具体的な連携に向けた取り組みが開始された。

久元氏のシリコンバレー訪問後、同年夏には Zafer Younis 氏も神戸市を訪問し、再面談を実施後、多名部

氏は1~2週間に1度の電話会議などを通して、プログラムの概要を固めていった。その際には、慣れない言語の壁がある中500 Startups側との難易度の高い交渉をほぼ一人でこなしたという。その結果、2016年4月に神戸市と500 Startups間でパートナー協定締結に漕ぎ着け、それに基づき、同年8~9月に起業家育成プログラム「500 Startups Kobe Pre-Accelerator」を実施した。計200社以上からの募集があり、審査の結果21社が採択された。同プログラムの応募は日本国内にとどまらず海外からも多くあった。この背景には、これまで神戸は起業の土壌がなかったため、スタートアップを志す人材が県外へと流出していたことがうかがえた。スタートアップ支援を通じて、起業家人材が神戸に留まる足がかりになるようなプログラムとして機能している。

■ 「500 Startups Kobe Pre-Accelerator」プログラム

「500 Startups Kobe Pre-Accelerator」プログラムでは、グローバルチームによるマンツーマン指導を含めた6週間にわたる実践的なプログラムを通じて、日本発のビジネスエコシステムを神戸から生み出すことを目標としている。具体的には、500 Startupsのグローバルチームによるメンタリング、各専門分野で活躍する有識者をゲストスピーカーに招いたレクチャー、法律やグロースハックへの理解を深める講習の他、およびピッチ準備支援等を行なっている。最終日はデモデイとして、参加スタートアップがプログラムの集大成としてプレゼンテーションを行う。詳細なスケジュールおよびプログラム内容は以下のとおりである。

図表 1 PRE-ACCELERATOR プログラムスケジュール

期間	内容と目的
WEEK1	「リーン・スタートアップと法律」 成長段階にあるスタートアップに求められるリーン・スタートアップ・アプローチと最も重要な法律について理解を深めることを目的とする。
WEEK2	「グロースとディストリビューション」 500 Startups が誇る、スタートアップの成長と顧客獲得に関するエキスパートたちを招き、グロース・ハッキングについて理解を深めることを目的とする。
WEEK3&4	「飛び出せ！スタートアップ」 3&4 週目は、これまでにメンターやその他の Kobe Pre-Accelerator 参加者から学んだ内容をもとに、各スタートアップは新たな目標設定を行い、会社設立に向けたプロセスを実行する。プログラムが休止となるこの期間中、前週のグロース・ハッキングについてのセッションを元に様々な実装実験を行い、各スタートアップがターゲットとするマーケットへのアプローチについて考察する機会を設ける。
WEEK5	「資金調達」 5 週目は資金調達に焦点を当て、効果的に資金を調達するためにスタートアップが求められるあらゆる考察と必要なステップについて理解を深めることを目的とする。
WEEK6	「ピッチ準備 & Demo Day!」 週の最終日に行われるデモデイのプレゼンテーションに向け、各スタートアップはピッチ準備を行う。シリコンバレーを代表するピッチの専門家によるサポートで、投資家をひきつけるような綿密かつ魅力的なピッチを完成させるための秘訣について学ぶ。

今年度は教育プログラムとして開催したため、資金提供は行なわなかったものの、今後は参加するスタートアップの数を増やし、さらに出資プログラムを併せたものに発展させていくことを想定している。

◆ 500 Startups が神戸市と組んだ理由

500 Startups はスタートアップのエコシステムが成立する要素として、資金の出し手である大企業、人材育成機能を持つ大学・研究機関、市場の担い手である市民、そして、起業家の支援者である VC の 4 つの構成要素が必要と考えている。このうち神戸市では少なくとも大企業、大学・研究機関、市民が充実していた。加えて、2015 年に企画していた学生向けの「起業家養成特別講座」などの取り組みを、起業家育成へ向けた包括的な施策と評価していたためである。

◆ 今後の方針

今後、神戸市では、自治体の産業政策とは一線を画したエコシステムの構築を目指すこと目標としている。エコシステム構築のため、①神戸出身の起業家育成プログラムの実施、②500 Startups を含めて既存企業とスタートアップの連携、③同市が強みとする医療産業との連携、を進めていく。

また今回の 500 Startups プログラムでは地域や業種を限定せずに募集したが、参加したスタートアップの多くが神戸市と関係のある起業家が多かった。神戸市はスタートアップのエコシステム構築を目標としており、現在まだ発展途上にあるが上記の取り組みを進めることで、将来的に神戸市で起業する人や起業を支援する人のコミュニティの形成を目指している。

1.4 成果

■ 「500 Startups Kobe Pre-Accelerator」プログラムの評価

上述した「500 Startups Kobe Pre-Accelerator」プログラムに参加した 21 社のスタートアップは、いずれも非常に高い評価をしている。その要因として、①豊富なメンター陣の存在（連続起業家・VC 経験者・プレゼンブラッシュアップなど専門スキルを有するメンバー）、②綿密なスキーム（メンター間で情報共有し、状況に応じてどのスタートアップにどのメンターをつけるか事前ミーティングで綿密に計画するなどの仕掛け・仕組み）、③経験値（1,500 社への投資実績、シリコンバレーやニューヨークなどの起業家とのネットワーク）のレベルの高さによると考えられる。また、500 Startups 内部でも今回の取り組みは非常に高い評価と報告されており、日本における初の試みでスタートアップが集まり、プログラムが成立したこと自体に評価を示している。

■ 新しい取り組みの開始「KOBE OPEN ACCELERATOR」

神戸市は、2017 年 1 月に新規事業創出に向けて地元企業とスタートアップの協業を後押しする公募プログラムを開始すると発表した。地元企業 6 社との連携を希望するスタートアップ企業を公募し、審査を経て採択されたスタートアップ企業の事業プランの実現を神戸市や地元企業が支援する。大手企業とスタートアップ企業のマッチングサイト上に、地元企業 6 社の興味分野や経費資源を公開し、協業に関心を示すスタートアップ企業を全国から募集する。例えば、同プログラムに参加する地元企業の中西金属工業は IoT や新技術に興味があり、精密金型・プレス成形などの加工技術と大手自動車メーカーや住宅メーカーなどの顧客基盤を自社の経営資源として、協業するスタートアップ企業を募集している。一連のプログラムを通じて神戸市はオープンイノベーションをさらに促進させたい考えだ。

1.5 成功要因

■ 民間 IT 人材の登用

成功要因の一つとして、民間 IT 人材の登用がある。自治体では、IT や最新のテクノロジー及びスタートアップ動向に精通した人材が少なく、また新たな事業を推進するための民間企業におけるビジネス経験を有する人材も少ない。日南市なども同様だが、こうした公的機関に不足する要素を補うために、民間からの人材を登用することでテクノロジーとビジネス両面における豊富な知識と経験を得ることができ、同市におけるスタートアップ支援事業の加速に繋がった。

■ トップと現場担当者との連携による海外アクセラレーターの呼び込み

神戸市は海外の経験豊富なアクセラレーターと組むことで、スタートアップ支援に向けたノウハウを得ることができただけでなく、国内外における起業家都市としての神戸市の認知度を向上させることにも繋がった。その背景には、海外のアクセラレーターとの連携に際して、多くの課題の直面する中、多名部氏が市長に起業家の聖地を体験・体感してもらうなどの地道な働きかけや関係先との粘り強い交渉を行なったことに加え、市長も多名部氏が動きやすい環境を整えたりと、トップと現場担当者との強い連携があったことが 500 Startups の誘致に成功した要因と言える。

<参考情報>

- 神戸市関係者へのヒアリング (2016年11月実施)
- 神戸市が 500 Startups とタッグを組みアクセラレータープログラムをローンチ、本日から募集受付を開始 (2016年4月)
<http://thebridge.jp/2016/04/announcing-500-startups-kobe-pre-accelerator-program>
- 行政によるスタートアップ支援と協働——神戸市と経済産業省の事例から (2016年12月)
<http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/PPP/report/121400022/?P=2>
- 500 Kobe Pre-Accelerator
<http://jp.500kobe.com/>
- 新・公民連携最前線 PPP まちづくり、「神戸市が地元企業とスタートアップの協業を後押し、参加企業を公募へ。(2017年1月)」
<http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/PPP/news/012700158/>
- 新・公民連携最前線、「神戸市が地元企業とスタートアップの協業を後押し、参加企業を公募へ」 (2017年1月)
<http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/PPP/news/012700158/>
- 神戸市シリコンバレー交流育成プログラム
<http://kobe-siliconvalley.com/>
- KOBE GLOBAL Startup Gateway
<http://kobe.globalstartupgw.com/>
- KOBE Startup OFFICE
<http://kobe-startupoffice.jp/>